

学会企画シンポジウム 1

「学力」はどう高まるか

——教育心理学からのアプローチ——

企画・指定討論：藤村宣之（東京大学）

企画・指定討論：岡本真彦（大阪公立大学）

企画・司会：高橋雄介（京都大学）

話題提供：佐藤誠子（東北大学）

思考の道具としての知識の学習をいかに促すか

——「知識・技能」に関連して——

話題提供：鈴木 豪（群馬大学）

多様な考えをどのように扱いどのように引き出すか

——「思考力・判断力・表現力」に関連して——

話題提供：伊藤崇達（九州大学）

「学力」の形成過程を支える自己調整学習

——「主体的に学習に取り組む態度」に関連して——

企画趣旨：

教育心理学や発達心理学の領域では、知識、思考、問題解決、理解、動機づけ、社会性などについての様態や変化、規定因や促進要因など、幅広い意味で「学力」に関連する理論的・実証的研究が重ねられてきている。一方、学校教育では「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体的に学習に取り組む態度」といった「学力の三要素」が教育実践を通して育むべき学力と位置づけられてきているが、教育実践において各要素の内実や相互の関連性、それらの形成過程などが必ずしも明確にされているとはいえないと考えられる。2023年度の第65回総会ではこのような問題意識から「「学力」とは何か—あらためて心理学から問い直す—」をテーマにシンポジウムを開催して議論を行い、教育心理学領域の実証的研究から、学力の「要素」やその形成過程が相互に密接に関連していることなどが明らかになった。その議論をベースとしながら、特に「学力」の形成過程や促進要因などに焦点をあてて、授業場面を直接対象としない実証的研究も含めて「学力」に関連する内容が高まるプロセスやメカニズムを心理学的に明らかにし、教育実践の課題について検討するシンポジウムとした。